哲学歴史学科
世界史コース

世界史コース（西洋史）ってどんなとこ？

大阪市大の西洋史分野のキーワードは、生活圏、それも住居や街並み、環境や文化、人や物や知識の流れの全体を取り込んだ、「合同生活圏」というものです。教員は古代から近世の地中海世界、そしてヨーロッパ近代から現代までのライフサイズの歴史に取り組んでいます。学生たちは自分たちの生活感覚からでた問題・関心を育てて、様々な地域と時代に題材をみつけて研究していきます。一見、難解すぎる信仰理念や政治神学なども、実は人々の素朴な生活実感にもとづいていたり、金銭のやりとりや住環境の良し悪し、といった身近な話が、実に世界史を揺るがした問題の本質をついていたり。西洋史分野での学びには、きっと驚くことがたくさんあります。

世界史コース（東洋史）ってどんなとこ？

東洋史分野には、東アジア、南アジア、西アジアを中心とするアジア全域を研究対象に収める3名の教員が所属しています。平田教授は中国の宋代の官僚機構などの研究を、上野講師はオスマン帝国史を研究しておられます。私、野村は近現代インドの社会経済史を研究しています。さらに各々の教員は、各自が対象とする地域・時代に加え、朝鮮半島や中東、東南アジアの古代史から現代史までをも射程に収めつつ研究しています。アジアに多様な関心を持つ教員とともに、東洋史分野に所属する学生は、21世紀に間違いなく世界の中心の一つとなるアジアと知的に格闘する学生生活を送っています。

卒業論文タイトル紹介

○旅行記から見る18世紀のオスマン帝国における女性の結婚と離婚
○清末四川省におけるアヘン生産とその影響
○『堕天使および悪魔の不節操一覧』を読んでの考察

准教授（西洋史）
草生（くさぶ） 久嗣（ひさつぐ） 先生

おすすめの本

阿部謹也『自分のなかに歴史を読む』（ちくま文庫）
中世ドイツ社会史の大家が、歴史家としての原点を振りかえり、学問の魅力と可能性を説きおこす。

井上浩一『私もできる西洋史研究――仮想（バーチャル）大学に学ぶ』（和泉書院）
大阪市大で実際に行なわれてきた西洋史分野の専門授業を、おもしろい筆致で実況中継風に解説している。

草生先生の研究について

私が研究しているのは大きく言えばビザンツ学です。歴史学の中でも特殊ではありますが、おもしろさが定まった分野ではなく、自らの手で開拓し、どれだけおもしろいことを見出せるかが問われる分野です。その中でも私が特に調べているのは「異端学」についてです。中世ヨーロッパにおける異端狩りは、当時の人々に知識がなかったからとか、狂っていたからではなく、異端狩りを行なった側、「異端学者」たちによって綿密に作られた正当化の理由があったから起こりました。人々を納得させたその理由は本にまとめられ、理路整然とした文章で「異端とはなにか」が書かれています。異端扱いをされた側ではなく、異端扱いをした側が研究対象であり、人々がなぜ異端について納得できたのか、「異端学者」たちはどうして人を異端扱いできたのか、本を分析することを通して、「異端学者」たちの頭の中をのぞくことで研究しています。

草生先生にとっての「芸術」

歴史家はそれに出くわすのを楽しみにします。ヨーロッパでは古代神話上名高いムーサイの「業」すなわち詩作や作曲、物語、演舞、演奏もすべて藝術であり、「歴史」もまた物を語る営みの藝術でした。歴史に限りません。そんな風に言葉を考えていくと、人文学全体も実は「藝術訓練」の場であって、文学部の人々は正しく藝術家やその卵と言うのが正しいのかもしれません。

が潜んでいることがあり、「藝術」はラテン語でアルス、ギリシャ語でテクネーといいます。先人から学んで身につけ、作品として残し、後世に伝えていくべき「ワザ（業・技）」のこと。だから「学業」もまたアルスでした。英語の「テクノロジー（技術）」や「アート（art）」の由来です。そのアルスも西洋中世では、「選ばれたいくつかの既成学問の名となり、近代以降では美術だけを「藝術」というあるありふれた言葉に、昔からの思わぬ大きな価値になってきて現代に至ります。しかし古代神

野村先生にとっての「芸術」

東洋史分野の歴史家が「芸術」を議論する際の一つの特徴として、他の専修と比べても遜色がないほどの多様な視点から芸術を語っている、という点が挙げられます。たとえば、私が専門領域とするインドの芸術作品として、17世紀中庸、当時インド亜大陸を支配下に置いていたムガル朝の皇帝シャー・ジャハーンが妻ムムターズ・マハルのために建立した墓廟タージ・マハル（Taj Mahal）があります。世界的に知られたこの芸術的建造物を舞台に、たとえば美術史家は、イスラム建築とインド建築の融合を語るでしょうし、政治史家は、この巨大墓廟にムガル朝の政治的正当性のありかを探るでしょう。私のような社会経済史家は、たとえば、20年近くを要し完成したこの墓廟の建築に要した費用がムガル朝の財政に与えた影響を検討することになると思います。このように、教員・学生問わず、東洋史分野に所属する歴史家は、様々な視点から芸術などの特定のテーマを研究し、結果として私たち人類にとってこれら特定のテーマが持つ意味をより深く理解すべく日々格闘しています。

野村先生の研究について

私の研究は近現代インドの経済史です。近現代の経済史一般の重要な研究課題として、産業革命の波及過程の解明というものがあります。有史以来長きにわたり、大半が食うや食わずやの生活を送っていた人類は、18世紀後半のイギリスで生じた産業革命により、急速に豊かな生活を享受できるようになりました。ところが、いち早く産業革命の果実を享受できた国の多くがヨーロッパやアメリカ大陸に集中する一方で、アジアの多くの国が産業革命の影響を深く受けるようになるのは20世紀半ば以降のことでした。もっとも、これには例外があります。日本とインドです。日本においては本格的な産業革命は一八八〇年代から、インドにおいてはこれより30年早く一八五〇年代から、産業革命を軸とする生産の拡大が生じています。しかし、19世紀後半以降急激な発展を継続して経験した日本とは異なり、インドの経済は一九八〇年頃まできわめてゆっくりとしたスピードでしか発展しませんでした。アジアでは例外的に極めて早い時代から産業革命の果実の受け入れに成功した両国が、なぜその後異なる経済発展経路を辿ることとなったのか。これが、私の研究テーマです。

准教授（東洋史）
野村（のむら） 親義（ちかよし） 先生

おすすめの映画

『Gandhi』（Richard Samuel Attenborough）
インドの近現代史を知る上では欠かせない一本。帝国主義史観・ナショナリズム史観を両睨みしつつ、史実を忠実に表現しようとする努力が垣間見える力作。

武縄さんの学びについて

――コースに入ってからの気づき
先生方の研究分野に類似した内容しか自分も研究できないのでは、と以前は思っていました。実際は興味のある好きな分野をやらせてもらえています。また関連する史料の講読も授業でサポートしてもらえるので、心強いです。世界史では史料をただ読むだけではなく、そこから何を考えるのかが重要だと思っています。多角的に出来事を捉え、現在にどんな影響を与えているのかがわかれば、世界を今までとは違う見方で見ることができるようになります。

3回生
武縄（たけなわ） もも実（み） さん

おすすめの授業
東洋史講読Ⅱ
この授業では、比較的易しい漢籍を原文で読んでいきます。受講者各々の読み下し方や解釈について、先生を交えながら議論するので、自分だけでは思いつかなかった新たな視点を得ることができます。また、白文から漢文を読み下すスキルも身につきます。

杉原さんの学びについて

――コースに入ったきっかけ
私は小学生の頃から歴史が好きでした。中学で「三国志」に出会ってからは、特に「三国志」の前後の時代にも興味を持ちました。やがて中国史全体へと興味が広がっていきました。
市大に入る前は、中国語中国文学コースに入ろうと思っていました。そのときは世界史コースには目を向けていなかったです。世界史コースに進んだのはコースガイダンスを経て、中国と世界史を天秤にかけたとき、世界史の方が好きだと気づいたからでした。

3回生
杉原（すぎはら） 航平（こうへい） さん

おすすめの授業
西洋史基礎講読
この授業では都市コンスタンティノープルについて書かれた英語の専門書を講読します。そして、それに伴って史料の読み方を学んで自ら史料報告や調査を行ないます。こうした営みを通して、西洋史の研究が具体的にどうなされているかを学ぶことができるのでおすすめです。

授業紹介 その①

特徴ある授業を紹介します！
（データは2016年度現在のものです）

College English
大阪市立大学の英語の授業です。ネイティブの先生が行なう授業はどれも個性的。クラスによっては英語で映画を観たり、小説を書いたりすることも！

新修外国語
英語以外の言語は、大学生になって初めて学ぶ人も多いはず。友達と話し合いながら、楽しく身につけることができます！ 写真はフランス語の授業です。

健康・スポーツ科学実習
大阪市立大学には、いわゆる体育のような「健康・スポーツ科学実習」の授業もあります！ バスケットボールやサッカー、ダンスやアーチェリーなど 10 種類以上の中から、好きなスポーツを選んで履修することができます。

上方文化講座
夏休み中の３日間に開講される、特別な講義です。プロの方々による文楽（人形浄瑠璃）の実演もあります！